

# コロナ禍での保育について(2)

## 発達の見点から見たコロナ禍の保育

参考論文：京都大学大学院教授 明和政子

2021.2.26 遠藤清賢

2021年1月に緊急事態宣言が出され、多数の感染者が出た地域では飲食店などの営業活動の夜間営業の自粛や不要不急の外出が制限されました。とくに医療活動が切迫し、適切な医療を受けることができない状況になってしまう地域もありました。2月になりようやく新規の感染者が減少し、緊急事態宣言を出した効果が目に見えるようになってきています。しかし、重症者の人数は依然として多く、医療従事者は予断を許せない状況になっています。日本でもワクチン接種が始まりましたが、一般の人々が接種できるほど数がそろってはいないようですが、このワクチンが良い効果があることを期待します。

保育の研究者の間で、コロナ禍において子供の成長に関する論文が出されています。コロナウィルスからの感染予防対策ということではなく、コロナ禍の中で保育を行うことにより子どもたちの成長にどのような影響があるのかを考察した論文です。先ず指摘されているのは感染を恐れることによって抱っこを控えることが子どもの成長に重大な問題があるのだそうです。子どもが泣いて訴えるのは、何らかの身体的接触の対応を求めているからであり、乳児は泣くことによって自分の気持ちや、今この時にして欲しいことを訴えるのです。この赤ちゃんが泣いて、抱っこされるという対応を保育者が的確にできていれば確実に信頼関係が形成され、この繰り返しが母と子の絆を強くするのです。しかし、コロナの感染が心配であるから抱っこはしない、スキンシップはしないという対応を厳密にしかも長期間にわたって行った場合、乳児は何も訴えない、泣かない子どもになるのです。信頼関係も育ちません。人間関係を構築する脳のネットワーク形成に支障を来すと言っています。不信感と不安感が増長されるべき成長が滞る恐れがあるのだそうです。保育園の中でも感染の予防の為、で

きるだけ身体的接触をしないという考えるのは問題があります。子どもの成長には抱っこ等、スキンシップは欠かすことのできない大切な行為です。この身体的接種を避けるということではなく、どうすれば安全に抱っこや、スキンシップを行うことができるのかを考えなければなりません。幸い赤ちゃんへの感染は多くはありません。私たち自身が健康であれば対応はできると思います。自分自身の日常の健康管理が大切であることを自覚し、当然ですが、体調が良くない時は、保育できないということ徹底しなければなりません。

もう一つマスクの効果について論じています。マスクは飛沫による感染を防止するために有効な対策です。今はほとんどの人たちが付けています。保育園でも保育をするとき保育士はマスクを装着しています。このマスクが子どもの成長に大きな影響を持っているのだそうです。マスクは表情を隠します。特に0歳児や1歳児は保育者の表情をしっかりと見つめています。この表情で、その人の心を想像するのだそうです。表情と言葉が一体となって子どもの心に働き、良い人間関係を構築する基礎が作られるのです。マスクによって顔が隠されてしまうため、保育者の笑顔を見ることができず、保育者が喜んでいるのか、そうでないのか、子どもたちはその人の心がどのような状態なのかを想像できなくなり、大人との信頼関係の構築に大きな支障を生じていると述べています。保育者、大人との楽しい時間を共有することが出来なくなるのです。マスクの装着により、表情と言葉によって自分がどのように思われているのかを確認することができないのです。赤ちゃん自身が自分は、大切にされているのか愛されているのかどうかを確認できなくなってしまうのです。愛情の具体的な行動を理解できない人になってしまう可能性があるというのです。その為に良い人間関係の形成に支障が出てしまうという問題があるのです。

コロナウィルスは人と人との接触や飛沫によって感染が拡大します。保育は子どもたちを育てるために、スキンシップや笑顔の関わり合いは無くしてはならない保育対応です。子どもたちに笑顔を見せ、保育者が喜んで生きている姿を見せることによって子どもたちの心は逞しく、優しく、成長できるのです。それが感染予防の為、スキン

シップをせず、マスクで顔を隠し、保育者の姿を隠しての保育対応は赤ちゃんの成長にとって重大な課題があることを確認しなければなりません。お互いに見つめながら、スキンシップをする保育ができない状況になっているのです。コロナ感染が短時間で収束するのであれば大きな問題にはならないと思いますが、何年もこのような状況が続くのであれば、子どもたちの成長に何らかの良くない影響が予測されるという問題があると述べられています。そうならないための対策を考えなければなりません。保育者が健康な状況であればマスクは外してもよいのではと思います。また表情が見えるようなマスクを工夫することを考えなければなりません。食事もお互いに背を向けての食事ではなくお互いの顔が見えるように食事をすべきだと思います。食事の楽しい時間や友達と一緒に過ごす楽しさや喜びを体験することの大切さは、保育者として働いてきた私たちは十分に確認し理解できると思います。そのために必要な予防の対策はどのような工夫をしなければならぬのか知恵が求められています。ここまで感染が拡大してしまいましたのでコロナウィルスをなくすることは不可能です。コロナウィルスと共存する生活を考えなければなりません。ワクチンは共存するための一つの手段です。日本でのワクチン接種が始まりました。まず求められることは私たちが健康でなければならないということです。私たちの保育園ではスキンシップを控えることはありませんが、健康であれば積極的にスキンシップもできるし、赤ちゃんたちの前ではマスクを外すこともできます。

発熱や悪寒、継続的な咳、臭覚や味覚の異常など体調が良くない時は、保育できないということを徹底しなければなりません。また、この状態を秘密にするのではなくこれは周りの人に周知する必要があります。感染してしまった場合、これは不可抗力です。感染者を誹謗中傷することはかえって感染を拡大する要因になります。お互いに支え合うことが大切です。そして、コロナの症状について熟知し、疑いがある場合は保育をしないことに勇気を持ちたいと思います。